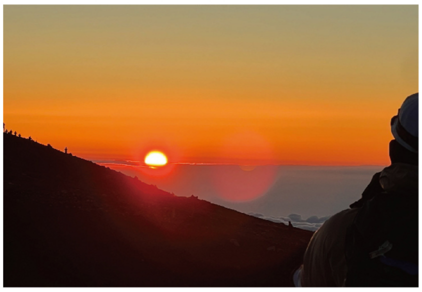
清風宏峯會
SEIFU Old Boys Association
SEIFU-TIMES
2025 vol.8

5月　修養行事　高野山 法隆寺 薬師寺

2025年5月、清風学園各学年にて修養行事が開催されました。
天気に恵まれない日もありましたが、参加した生徒達からは楽しかったとの声をもらうことができました。
伝統ある恒例行事がこれからも続いていくことを願っています。



7/29-31　恒例行事 第43回富士登山

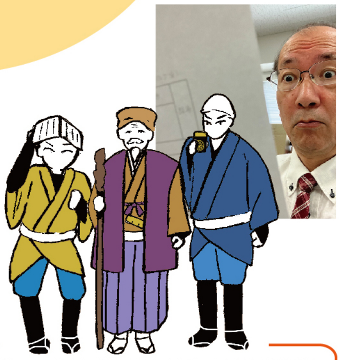
第43回富士登山が2025年7月29日(火)から31日(木)にかけて開催されました。先発隊、後発隊各130名と引率、サポートの皆様が参加され、総勢300名が関わる恒例行事です。
先発隊は29日から、後発隊が30日からと、それぞれ2日間にわたり日本最高峰の登頂へ挑戦しました。

登山ルート：富士宮口五合目～元祖七合・八合～山頂～御殿場ルート～宝永火口～富士宮口五合目

Relay Talk 6

リレートークとは、先生方や事務員の方などさまざまな清風学園を支える皆様にテーマに沿った寄稿をしていただき、次の寄稿者を紹介、リレーを繋ぐ企画です。

「私の卒業したい〇〇」



ドラマ『水戸黄門』に登場する八兵衛は「こいつぁうっかりだ」という口癖から「うっかり八兵衛」と呼ばれる

人間は誰でも「うっかりミス」をするものですが、私の場合、その数が人一倍多い。若い頃から色んな場面で「うっかりミス」をして、同僚や生徒の皆さんに迷惑をかけてしまいました。さすがに同じようなミスを繰り返すと、自己嫌悪に陥りますし、「またか」と苦笑いしていた同僚や生徒も「いい加減にしろ」となってきます。
歳とともに、自分のやることなすことに「いや待て、何か見落としてないか」と自分を疑ってみる習慣がかなり強まりましたが、それでもやっぱり時々やらかします。「うっかりミス」からの卒業は夢のまた夢のようです。

第6回ゲスト
鎌田 隆 先生
担当：国際交流部／社会

鎌田隆先生より「私の卒業したい〇〇」というテーマでご寄稿いただきました。
次回のテーマは「最近嬉しかったこと」です。バトンを受け取った方の寄稿をお楽しみに。

清風宏峯會 Web名簿システム リニューアルのお知らせ

会員同士の繋がりをサポートするシステムが新しくなりました。
情報登録をお願いいたします！

引き継がれる「自利利他」の精神

『SEIFU-TIMES』でも何度か触れた「OBの大学生たちが現役の生徒たちをサポートする勉強会」。非常に清風らしい取り組みを伝えたい。今頑張っている生徒たちの励みになり、次の世代につながることを望み、勉強会の監督である澤賢一先生とチューターとして参加している大学生にお話を聞きました。

澤賢一先生

清風高校を 1981 年３月に卒業。
1986 年から清風で教鞭に立つ。
担当は体育。新体操部顧問

——勉強会が始まったきっかけは。

卒業後もクラブによく顔を出していた優秀な大学生が２人いました。平成１４年に２人から家庭教師のアルバイトでよその生徒を教えるならタダでもいいから母校の生徒を教えさせてほしいと申し出がありました。２人のことをよくご存じだった宏一校長（当時副校長）が考えてくださって、次の年から土日に寸志程度の日給でお願いすることになり、２年間で１５０回教えに来てくれました。初めは私のクラスや学年、クラブの生徒を呼んで教えてもらいました。２人が大学の研究や実習等で忙しくなったので、勉強会の継続が難しくなりましたが、生徒や親御さんの声もあって閉められませんでした。ほかに教えに来てくれる OB 大学生もいたので月に２回でしたが細々と続けてまいりました。新校舎ができたとき食堂を使わせてもらうことになり、それから全体に広まっていって、４年前正式に始まりました。

——生徒が増えると OB の大学生もそれなりに必要だと思いますが、現在何人くらいいますか。

先輩たちに教えてもらったからここで恩返しをしたいという卒業生たちが今は５３人います。今月だと希望者３０人くらいの中から文系・理系バランスよく選んで日程を組んでいます。平日も入ってくれています。ほかの学校も自習室がありますが、清風は質問のできる自習室になっています。そんなことを大学生は皆自分たちでやっています。

清風宕峯会 神藤佳浩幹事長

——今は清風の学生であればだれでも参加できるのですか。中学生が参加しても大丈夫でしょうか。

だれでも参加できます。中学生も 15 人くらい来ています。こういう取り組みは日本中どこにもないでしょう。塾よりももっと良いものにしたいと思っています。清風生であればマンツーマンでついてもらっても無料です。自習室に来て学年と入退室時間を名簿に記入するだけで利用できます。

——先生から教えてもらうのと、自主的に先輩から教えてもらうのと違うような感じがしますか。

質問がしやすいと言う生徒が多いです。「こんな質問をするなよ」と言われるようなことはない。どんな生徒がいるか分からないし、家庭環境もそれぞれ違う。３カ年生と６カ年生の勉強の進み具合も違いますので、その辺りは配慮するよう OB の大学生たちに指導しています。生徒の名前を全員覚えている OB、受験の直前に先輩の一言が欲しいという生徒の要望に応え、試験の応援に駆け付けた OB が何人かいます。現役生にとっては心強い存在ですね。

——勉強面だけでなく、そういう人に出会うということも特別なことですね。そういった経験をした生徒たちは、将来的に先生として教える立場に帰ってくることはありますか。

勉強会から京大に入り清風の教師になった OB がいます。現在、京大理学部に通っている OB も清風の教師になりたいと聞いています。嬉しいですね。

——本当にすごいですね。清風が目指す一つの理想形であるのではないでしょうか。生徒たちも、先輩の行動・背中を見て、教えなくても自然に伝わっているということなのでしょうか。

清風に縁あって来られる生徒さんは、そういう芽は出ていなくても、素養を持っていると思います。医学部生らは、もっと高い賃金で引っ張りだこなのに、清風に教えに来ています。母校で自分も面倒を見てもらったから恩返しに来ているのであって、お金が原動力ではないのです。先輩と同じ大学で学びたいという生徒も数人います。そういうものが繋がっています。良い生徒に恵まれました。

——自利利他の精神ですね。それを実践されているのが素晴らしい。きっかけを作っていただいた澤先生の熱い思いが伝わります。

あくまで勉強会は授業のサプリメント的な位置付けで活動しています。うまく認知してもらって先生方に引き継いでいただけたらと思っています。

次世代に繋がる、清風が目指す理想形

勉強会の意義について語る
左から川中佑哉広報委員長、
ＯＢ大学生の武田悠佳さん、
今西顕太郎さん、峯田航弥さん

——勉強会に参加したきっかけは何でしたか。

武田　私は医学部を目指したいという思いがあったので、勉強会に行ってOBの方に教わっていました。無事に医学部に合格することができて、澤先生からお誘いがあって恩返しではないですが、生徒さんに何かできたらと思い、参加させてもらったのがきっかけです。

今西　武田君とも同じ学年で、皆と切磋琢磨しながら利用したのが勉強会を認知したきっかけです。大学生活のことや受験に関してもより個人的で具体的な経験を教えてくださって、自分が勉強するに当たってのモチベーションになりました。自分の力を出して合格を勝ち取るのは難しいことではないと教え過度な不安を取り除いてあげて生徒の助けになれたらと思いチューターとして戻ってきました。

峯田　学年部長が澤先生だったので高２の夏休みくらいから通い始めました。そこで教えていただいた大学生の方に質問したらすぐに答えてくださって、難関大に受かる学生さんはすごいなあという印象をまず受けました。名前も覚えてくれて親しみが湧いて、私も将来このような大学生になりたいとイメージをもって卒業してからも通い始めた感じです。

——教える立場に変わって気が付いた点や意識していることなどはありますか。

武田　澤先生が大学生に対して求めている像というのが、大学生側から積極的に声を掛けて生徒さんからいろいろ引き出すというイメージだと思うのですが、私は本人のペースを尊重してあげたいから、なるべく個別指導のときに生徒さんの悩みなどを引き出せるよう、話をきちんと聞いて受け止める姿勢を意識しながら指導に当たっています。澤先生も、私のやっていることは求めている像と少し違うと思いながらも、認めてくださっています。

今西　いい意味で大学生感を出すこと。教えるのはやっぱり先生の方が上手い。しかし近年受験を経験した立場だからこそ、戦略や大学生ならではのことを生徒に伝えられるようにしています。

峯田　自分が高校のときに教えてくださった先輩から自身の経験を通したアドバイスをいただいたのですが、学力の差があってそのやり方が合っているのか疑問だったので、なるべく自分の意見を押し付けないように気を付けています。今はタブレットを使っており、勉強の仕方もここ数年で変わってきているので、アドバイスするよりも一緒に問題を解決していくことを意識しています。あとは学生当時、名前を覚えてくださったのが嬉しかったので、私も頑張って名前を覚えて気軽に話し掛けてもらえるよう意識しています。

——最後に、やっていて一番嬉しかったことを教えてください。

今西　やはり合格した生徒が大学生になって勉強会で再会したときでしょうか。

峯田　今西君が高校生のときに教えていたので、戻って来てくれたときは嬉しかったですね。